

第5回旭川内山下構造検討委員会 議事要旨

【日時及び場所】

日 時 : 令和3年2月15日(月) 13:30~16:30
場 所 : 現地及び岡山河川事務所 会議室

【出席委員・オブザーバー】(敬称略、50音順)

委員長 : 前野 詩朗(岡山大学大学院 環境生命科学研究科 名誉教授)
委員 : 稲田 孝司(岡山大学 名誉教授)
篠原 修(東京大学 名誉教授)
オブザーバー : 柴田 英樹(岡山県教育庁 文化財課長(代理))
高橋 伸二(岡山市教育委員会 文化財課長(代理))
灰佐 勇祐(岡山県 河川課長(代理))

【議事概要】

- ・現地において、埋蔵文化財調査の状況と石積みの試験施工を確認した。
 - ・事務局より(1)護岸構造、(2)埋蔵文化財調査概要、(3)広報手法・整備内容、(4)今後のスケジュールについて説明
- 以下の整備方針を確認した。

- ① 整備区間上流部の処理については、既存石積みの保全と流水の影響を考慮した施工とする。
- ② 「護岸構造(表面しつらえ)」については、これまでの検討資料及び石積み試験施工(市民アンケート調査含む)を踏まえ、「野面石乱積み」とする。
- ③ 「排水処理」について事務局(案)で了解。ただし、雨水等排水により石積み表面に汚れが生じないように護岸裏込め部への排水処理も含め工夫を行う。
- ④ 付帯構造(「天端処理」、「転落防止柵」、「遊歩道」、「捨石」)について事務局(案)で了解。
- ⑤ 関係機関との調整を踏まえ、堤防構造に支障がない範囲で堤防整備後も史跡である既存石積み天端の輪郭がわかるような工夫を行う。
- ⑥ 歴史的施設である既存石積みの記録と新たに整備する堤防護岸の計画整備概要などの広報手法・整備内容について、今回の埋蔵文化財調査で確認された情報を含め、各専門の委員からの助言も踏まえ整備を行う。
- ⑦ 近年の全国的な豪雨災害の発生状況からも早期の工事着手を目指す。

以上